

世界遺産 富士山 構成資産

# 人穴富士講遺跡

富士山信仰“富士講”の歴史を今も引き継ぐ





人穴の碑塔群

## 富士山信仰と富士登拝

かつて人々は、何度も噴火する富士山に激しく怒る神の姿を重ね遠くから拝んでいました。

平安時代後期に、富士山の噴火が収まってくると、富士山で厳しい修行を積み、霊力を手に入れようとする修験者が現れました。

富士山は、遠く拜む山(遥拝の山)から実際に登って拜む山(登拝の山)として、広く知られるようになりました。江戸時代には、登拝によって家族の安全や幸せが約束されると考える「富士講」という組織が生まれ、多くの庶民が富士山頂を目指すようになります。



▲葛飾北斎の富嶽三十六景「五百らかん寺さざい堂」には、富士山を眺める江戸の人々が描かれています

## 庶民の富士山信仰“富士講”

当時の富士登山には、多くの時間とお金がかかったため、人々は、富士講というグループをつくりました。富士講の人たちは、グループの中でお金を積み立て、毎年何人かを代表者として選び、人々の祈願を託し、登山させていました。

講は、全員が登山するまで続いたため、講に入れば誰でも登山する機会を得られました。

江戸時代中期には、江戸を中心に富士講が大流行しました。

## 修行者“長谷川角行”

江戸時代に富士講の開祖とされたことで有名な人物が、長谷川角行です。

角行は、1541年に長崎に生まれ、世の中の人々を救うために、全国各地の神聖な場所や神社・寺を巡り、旅をした修行者です。角行は、戦国時代の終わりから江戸時代の初めに、人穴で厳しい修行を積み悟りを開き、106歳の時に人穴で亡くなったといわれています。

角行の死後、彼を慕い、弟子となった人々によって、彼の教えや作法が引き継がれ、富士講として発展してきました。

像真之師尊行角



▲角行は、白糸の滝で身を清めた後、人穴の洞窟に入り、一日に何時間も4.5寸(13cm程度)の角材の上につま先立ちで立つ修行を、1,000日間続けたと言われています

## 人穴の碑塔

富士講の人たちは、江戸に近い吉田口(富士吉田市)や須走口(小山町)から富士山に登り、その後に人穴を訪れ、修行や参詣(お参り)をしていました。人穴は、角行が修行して亡くなった地(浄土)であり、富士講の人たちにとっても大切な場所だったからです。

今でも、人穴浅間神社の境内には、富士講の人たちが建てた先達(講のリーダー)の供養(ひとご)の碑塔、大願成就や登拝を記念した碑塔があります。

碑塔は、墓のような形をしたものが多く、富士講の所在地やシンボルマーク、講員や先達の名前などが刻まれており、その数は200基を超えています。そのほとんどは関東地方の富士講が建てたもので、中でも東京都のものが多くあり、江戸を中心とした富士講の歴史が今もこの地に引き継がれています。



▲葛飾北斎の富嶽三十六景「諸人登山」には、登拝する富士講の人々の様子が描かれています

## 光保寺と御法家赤池家

江戸時代まで、人穴には光保寺があり、溶岩洞穴“人穴”の上に大日堂などの建物があったと考えられています。

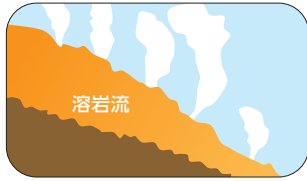
御法家赤池家は、人穴全体の管理、参拝者の案内や宿泊の世話、御札の授与などをしており、御法家赤池家が光保寺だったのではないかとされています。



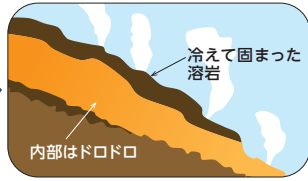
▲明治時代の赤池家

## 溶岩洞穴“人穴”はどうやってできたの？

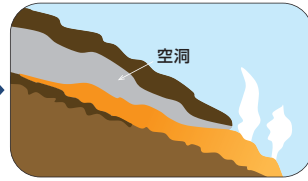
①富士山が噴火し  
高温の溶岩が流れる



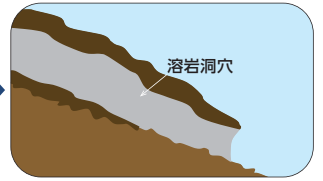
②溶岩の表面が  
冷えて固まる



③固まらなかった内部の  
溶岩が流れ出て空洞になる

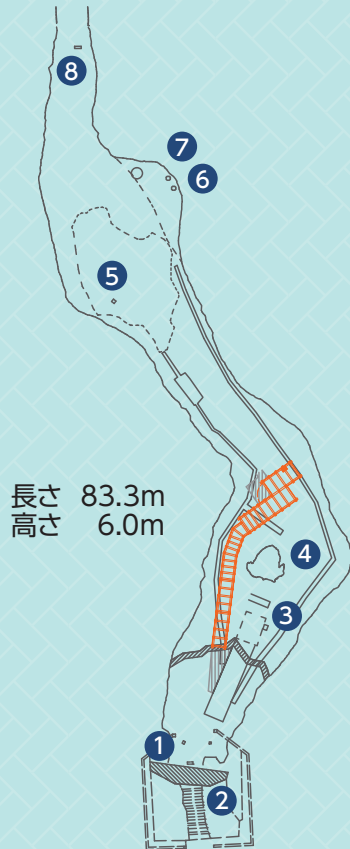


④空洞になったところが  
洞穴になる



## 洞穴の内部

内部には、富士山信仰に関連する石仏や碑塔、壁のくぼみには修行者が立てたろうそくの跡などが残っています。



長さ 83.3m  
高さ 6.0m



① 石仏



② 碑塔



③ 碑塔  
大正4年(1915)



④ 溶岩柱



⑤ 伝コノハナサクヤ像  
大正4年(1915)



⑥ 石仏  
寛文13年(1673)



⑦ 石仏  
寛文4年(1664)



⑧ 浅間大神の碑

## 人穴浅間神社

明治時代の初めの神仏分離令により、光休寺は廃止され、代わりに人穴浅間神社が置かれました。

太平洋戦争が激しくなった昭和17年に上井出に陸軍少年戦車兵学校が作られると、人穴が戦車の訓練場となったため、人穴浅間神社は芝山に移されました。

終戦後、現在の場所に復興されました。



▲現在の人穴浅間神社の社殿は、平成13年に再建されたものです

## 人穴の探検



あづまかぐみ  
吾妻鏡に記されているお話です  
吾妻鏡は、鎌倉時代の歴史書で、鎌倉幕府の初代将軍の源頼朝から第6代将軍までの将軍記が記されています。

By:Y.N



人穴に探検に入った、新田四郎忠常が馬に乗り、どんどん進むと江ノ島の弁天さんの岩穴に出たという伝説もあります。

富士山世界遺産ガイドが案内します

人穴富士講遺跡の案内所  
土・日・祝日: 10:00~15:00

お問い合わせ

富士宮市役所  
富士山世界遺産課

☎22-1489 FAX 22-1206

富士山世界遺産課公式Twitter

富士宮を歩く すてじかん。  
~富士講巡礼の地を歩こう~

動画はこちら→



# 富士講巡礼の地マップ

ゆっくり  
歩いて  
3時間



- 凡例マーク
- コンビニエンスストア
  - ガソリンスタンド



**1 御法家赤池家屋敷跡**  
御法家赤池家屋敷跡には、碑塔が2基残されている



**2 駒立観音**  
富士の巻狩で源頼朝がその様子を眺めた記念に建てられた



**3 芝山浅間神社**  
戦時中、人穴浅間神社がここ芝山に移され、終戦後再び人穴に復興された後も、そのまま芝山浅間神社として残された



**4 上井出天満宮**  
富士山を横して造られた日本一高い土俵がある



**5 富士講 碑塔 NO.252**  
明治35年建立



**6 工藤祐経の墓**  
富士の巻狩で曾我兄弟に討ち入られた源頼朝の家来の墓



**7 曾我の隠れ岩**  
曾我兄弟が身を潜め工藤祐経の討ち入りを相談したといわれる



**8 富士講 碑塔 NO.250**  
大正3年建立



**9 食行身祿の碑**  
江戸時代中期の修行者で富士講の発展に貢献したとされている



**3 芝山浅間神社**  
北から南へ



**2 道順**



**10 お鬢水**  
富士の巻狩で源頼朝が髪を直したといわれる